

碧南のけしき

とき
平成23年2月27日(日)
ところ
芸術文化ホールシアターサウス

市では「碧南市の将来像」の実現に向けて、市と市民が主体となり持続可能な景色づくりに取組むため、2月27日に景観行政団体になりました。このことを記念し、碧南市の取組みの紹介と今後の景色づくりについての講演会を開催しました。



第一部 紹介「景観法と碧南市の取組み」

主催者あいさつ 碧南市長

榑亘田 政信

本市はこれまで景色づくりに関する様々な取組みを行っており、素晴らしい景色資源が生まれつつあります。今後も今ある資源を十分活用し、最小限の規制で最大限の効果が生まれるよう皆で取組んでいきたいと考えております。



来賓あいさつ 愛知県建設部 公園監

柴田 敏彦

本年、愛知県ではみよし市と碧南市が景観行政団体となりました。碧南市が古いものと新しいもののそれぞれの良さを活かし、来訪する人も楽しめるまちとなるよう、今後も県と市が一体となり積極的に取組んでいくことが重要と考えております。



愛知県建設部公園緑地課 主幹

高野 昌彦～景観法の活用について～

景観行政団体になられたことをお喜び申し上げます。景観行政団体は、地域にとって景観上重要な構成要素を景観重要建造物や景観重要樹木、景観重要公共施設に指定し、積極的に保全や向上を図ることができます。また、景観法に基づく景観協定や景観協議会、景観整備機構、景観計画の提案制度といった景観形成活動の支援ツールもございます。今後は、景観法を十分に活用しながら住民、事業者、地方公共団体、国の協働により、より良い景観が形成されることを願っております。



《愛知県における景観行政団体》

碧南市建設部都市計画課 課長

中村 正典～碧南市の取組みについて～

本市はこれまで景観ワークショップや景色フォトコンテストなど様々な景色づくりに関する取組みを行ってきました。

平成22年度からは、市民・事業者・行政が協働して取組める持続可能な「景色づくり」のガイドラインとなるように景観計画策定に取り組んでおり、景色づくり委員会や景色づくり作業部会、景色づくり研究会等での議論を重ねている最中でございます。

本日の講演会へのご参加により、景色づくりに関心を持って頂いた方やまだ馴染みの薄い分野だと感じられる方もいらっしゃるかと思います。まずは身近な景色を写真に取めたり、家の周りをきれいにするなど、できることから始めていくことも大切であると考えております。

碧南市景色づくり研究会 会長

竹原 幸子～碧南市景色づくり研究会について～

景色づくり研究会は、景色づくり委員会への提言や景色に関する研究を目的としてこれまでに全2回開催しております。メンバーは、「碧南市が好き」、「路地が好き」、「子どもに良い景色を引き継ぎたい」、「景色に危機感を抱く」といったそれぞれの思いを胸に、研究会への参加を希望しました。

私は、市民環境会議の会長でもあることから、環境基本計画に携わる会員にも声をかけながら、景観への取組みを広く推進していきたいと考えております。



第二部 基調講演「これからの碧南の景色づくり」

すいづ 水津 功

愛知県立芸術大学 美術学部 准教授

専門分野：環境デザイン、景観デザイン、ランドスケープデザイン、庭園デザイン

目を閉じて、
家からここに来るまでを
順番に思い出してみてください。



◆景色づくりを行うには・・・

景色づくりを行っていくためには、まず自分が気になる景色や美しいと感じる景色は何なのかを意識することから始まります。次に他人との共通点や地域性を見つけ、まちの共通の景色資源として評価していくことが重要です。

皆さんは、眼を閉じると、どんな景色が目に浮かんでくるのでしょうか。

◆調和と対比

景色づくりは、古い資源を守ること（今ある資源同士を調和させること）と同時に、新しい資源をつくること（古い資源と対比させること）で古い資源と新しい資源の両方が輝くようになります。

◆新たな可能性

今後は碧南市にとって次の3点が新たな景色づくりの可能性を秘めたものとなると考えます。

- 1 エコロジー：用水、斜面緑地、鎮守の森、学校などに多様な生物の生存出来る環境を作る
- 2 跡地：名鉄三河線跡地は碧南市の新しい都市インフラストラクチャー（道路などの社会基盤）になる
- 3 水：衣浦港、油ヶ淵、新川、堀川、蜷川、矢作川などに水との接点をデザインする

心に残る景色を集める活動 6地区の物語

平成17年から、住民との協働により6地区ごとに景色の収集やパネルの展示会などを行う「心に残る景色を集める会」を開催してきました。個人の思い出や景色にまつわるエピソードなどの聞き取り、現地踏査、古い写真の収集、写真撮影などを行い、パネルにまとめました。以下は、各地区の特徴を良くあらわしている写真です。

平成17年 西端地区



住宅地に残る斜面緑地。

平成18年 棚尾地区



昔から乳母車を押す人達に愛された路地。愛称は「乳母道」。

平成19年 大浜地区



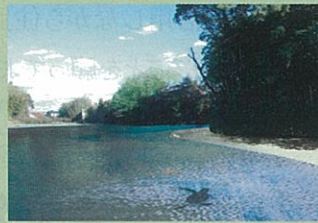
上の宮熊野神社。昔は海水浴場だったため、松林で着替える人もいた。

平成20年 新川地区



新川地区といえば、煙突の景色。地区の方に提供して頂いた一枚。

平成21年 旭地区



天満社の裏。水津先生らが昔の入江を再現するためにつくった一枚。

平成22年 中央地区

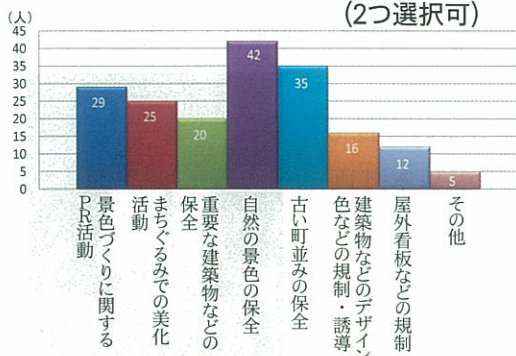


いつもきれいに整えられている中山のお地藏さん。

景観行政団体化記念講演会「碧南のけしき」アンケートより

景観づくりに必要なものは？

(2つ選択可)



意見・感想・提案

■新しい景色を作るのではなく、古いものと調和と対比をすることが重要であることがわかった。(70歳代男性)

■自分の現在住んでいる町がとてもおしく感じる講演会でした。古いものも新しいものも両方とも大切にしたいと思います。(40歳代女性)

■市の昔からある景色にスポットをあてる機会を住民が持てるととても良いと思います。長い年月の後、この活動の大切さ、素晴らしさがさらに気付かれると思います。

(30代男性)

■次代に残し、伝える景色を大人と子どもが一緒に見る活動が必要。(50歳代男性)